二〇一二年五月一九日

欅坂コンサートへと新樹光　はく子
コンサートへと緑陰の道辿る　満天
遠足の揃いの帽子と乗り合はす　よし子
畦川の奔る水音夏に入る　うつぎ
参道の樹下はさながら著莪浄土　有香

二〇一二年五月一八日

像囲みアンネの薔薇は金色に　雅流
谿若葉森林浴のほしいまま　はく子
茅花流し池の漣絶ゆるなし　こすもす
白壁の櫓にゆらぐ若葉影　わかば

二〇一二年五月一七日

舌頭に千転しつつ青き踏む　うつぎ
新緑の風に放ちしフリスビー　あおい
数珠なせる駐車はなべて昼寝中　こすもす
新緑の山二夕分けす高速道　宏虎
背なの紋割れて飛び立つ天道虫　三刀

二〇一二年五月一六日

古灯籠立ち並びたる木下闇　ぽんこ
傳けるごと膝ついて薔薇手入れ　菜々
ダム湖いま水満々と桐の花　雅流
万緑の山眼下とす観覧車　なつき
草を引く五指を熊手のごと使ひ　うつぎ

二〇一二年五月一五日

囀りの天洩るごとくにぶな林　有香
教会の窓にアンネの薔薇薫る　こすもす
坂の上なるお屋敷や桐の花　菜々
燕の巣頭上注意の札立てて　ともえ
たもとほるアンネのバラの芳香に　せいじ

二〇一二年五月一四日

水平線真一文字に夏兆す　よし子
夏めくや伎芸天女のうす衣　雅流

二〇一二年五月一三日

老鶯や七堂伽藍響かせて　わかば
野球少年カーネーションを買ふ列に　満天
ウインドのマネキンもまた更衣　宏虎
腕太きことが悩みや夏きたる　よし子
春惜しむ大吊橋の真ん中に　せいじ

毎日句会みのる選・二〇一二年五月二一日